

# 令和6年度 学校評価表

品川区立芳水小学校

校長 高木 圭一

芳水小学校校区教育協働委員会

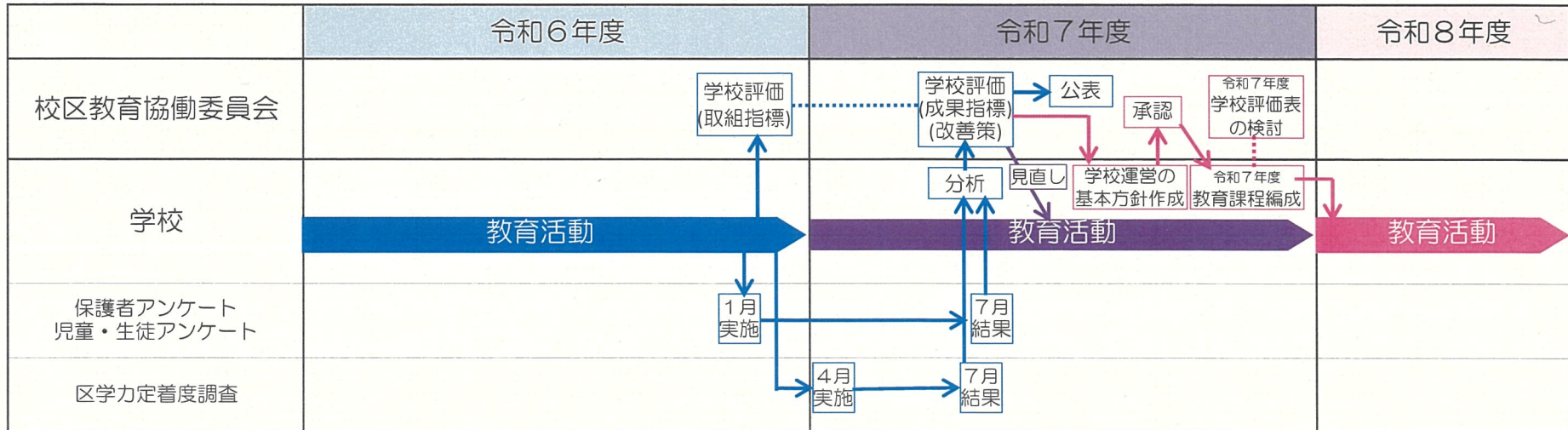
委員長 小泉 和博

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和6年度の学校評価が令和7年度および令和8年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和6年度 学校評価 品川区立芳水小学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		教育目標 【よく考える子】 ◆自分から学ぶ姿勢の確立 ～どのような課題でも自力解決できる意欲と学力を付け、学ぶ大切さを基本とした自学を目指す～ ○自学自習の習慣づくり ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ○ICT機器の活用		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	品川区学力定着度調査の全学年・全教科で目標値を上回る。	国語、社会、算数は、どの学年も目標値を上回っている。	A	今後も、ねらいを明確にした授業を行うとともに、基礎的・基本的な力を身に付けられるよう、個に応じた指導を充実させていく。
	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、各教員が発達段階に応じ、工夫した授業を行う。	1学期に実施した品川区学力定着度調査の結果から授業改善プランを立て、2学期以降、授業の工夫を行った。	A	
②	品川区学力定着度調査において、理科・社会の正答率を70%とする。	4～6年生の社会の平均正答率は70%であり、成果指標を達成しているが、理科は62.6%であり、7.4ポイント下回っている。	B	児童がより興味関心をもって調べたり、実験・考察をしたりする授業を、今後も意識して行う。
	3～6年生において理科・社会での教科担任制に取り組み、指導内容の充実を図る。	理科、社会それぞれの専門性を深めたり、授業の進め方のルーティンが確立されたりして、指導内容の充実を図ることができた。	B	
③	区の調査「英語の学習は大切だと思う」の回答が90%以上とする。	アンケート結果の平均は、92%であった。6年生は85.1%で90%を下回ったが、2～5年生は90%を上回っている。	A	ALT、JTEを活用し、歌やチャンツだけでなくJoint Storytellingを中心とした授業のさらなる改善を図ることで、児童がより英語の学習に意欲をもてるようにしていく。
	ALT、JTEを活用した授業のさらなる充実を図る。	青山学院大学アレン教授を講師として、Joint Storytellingを中心とした年3回の授業研究を行い、指導力の向上を図った。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		教育目標 【やさしい子】 ◆正しい礼儀と生活規律、豊かな情操の形成 ～豊かな人間関係を築き、礼節の重視と社会性・人間性を基盤とした自律を目指す～ ○市民科学習の充実＜自己管理領域・人間関係形成領域の重点化＞		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童・生徒アンケート(R7.1実施)において、「他学年と交流することは楽しいと思う」の肯定的意見が80%以上となる。	肯定的な回答をした児童の平均は、81.4%だった。一方で、5年生が74.2%、6年生が66.7%と、高学年になるにつれて下がっている。	B	・学級・学年・学校をよりよくしていこうという思いをもっている児童は多い。学校をよくするために必要な活動を児童が主体的に考え実行する機会を増やすとともに、充実感、達成感を味わえるようにしていく。
	委員会・クラブ活動や縦割り班活動の充実を図る。	委員会・クラブ活動・縦割り班活動で、より主体的に活動を考え、実行することで、充実感を味わえるようにした。	B	
②	児童は、生活の約束を守り、友達と折り合いを付けながら楽しく生活している。	生活の約束を守り、友達と楽しく生活している、という点においては、おおむね問題のない状況である。友達と意見の相違があった場合にお互い譲れずトラブルになることがある。	B	・来年度、自分や自分の所属する集団を自らよりよいものにしていこうとする意識を意図的・計画的に醸成するため、全学年で市民科「自治的活動領域」の学習の充実を図ることを継続していく。
	毎学期に人間関係形成に関する単元を実施し、各学期および行事を関連させながら年間を通じて自己評価を行う。	学期ごとに市民科で、自他理解・コミュニケーション力・奉仕の精神に関する授業や行事を行って、振り返りで自己評価を行った。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		教育目標 【元気な子】 ◆強い心と体の育成 ～自信をもち、常に努力するたくましさをもつ精神的・身体的な強さを基盤とした自立を目指す～ ○魅力ある体育学習による意欲の高揚と日常的な運動習慣の確立 ○心の健康 自己肯定感の高揚		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	自ら積極的に運動している。	どの学年も、積極的に運動している児童がほとんどであった。	A	・年々児童数が増加しており、全学年が一斉に校庭や体育館を使うことが困難になっていくので、工夫が必要となる。 ・TA(テクニカルアドバイザー)を活用して、より個に応じた指導・支援を行えるようにする。
	月1回のロング(30分)中休み・昼休みを設定し、体を動かす時間を十分確保する。	ロング中休みや昼休みを設けたことで、児童が十分に体を動かす時間が確保された。	A	
②	年2回の長縄記録会では、全学級が1回目の記録を上回る。	25学級中、13学級が、1回目の記録を上回った。また、学年での合計は、すべての学年で昨年度を上回った。	B	・「ソフトボール投げ」「握力」では、前年度に引き続き全ての学年(男女別)で平均を下回った。このことから、体育の時間や家庭に周知し、意図的に取り組む必要がある。ポルダリングを休み時間等で有効活用したり、体づくり運動等で投力につながる活動を行ったりし、握力や投力の向上を図っていく。
	体力テストの結果において、半分以上の種目で全国平均を上回る。	全8種目、6学年(男女別)96項目中、平均を上回った項目は57項目であった。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		【芳水小学校いじめ防止基本方針】 いじめは、どの学級でもどの子どもにも起こり得ることから、誰もが安心して学校生活を送れるように、全教職員が共通理解を図り、同一歩調のもと、いじめのない学級づくりにとりにていく。 また、学校と地域、家庭、その他の関係機関との連携も積極的に行っていく。 ○いじめを許容しない集団づくり ○人権教育の充実		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	いじめは人権侵害行為であり、決してしてはいけなと共に、大人は決して許さないという認識をもつ。	ふれあい月間において、いじめ防止に関する授業を実施し、いじめが人権侵害であり決して許される行為ではないことを指導した。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめは、どこでも誰にでも起こり得るという認識をもって、今後も取り組んでいく。</li> <li>児童間のトラブルがあった際は、速やかに複数で事実確認を行い、組織的に対応し解決を図る。</li> </ul>
	毎学期いじめを許容しない集団づくりに向けた授業を実施する。	各学級において、毎学期にいじめを許容しない授業「トリプルチェンジ」を計画的に実施し、「シンキングエラー」等、いじめを自分事として捉えて振り返らせることを行った。	A	
②	児童が自ら、友達関係の悩み事を、早期に大人に相談することができる。	区実施のアンケートを定められた期間に確実に実施することで、児童から友達関係等の悩みを相談する機会が増えた。	A	今後も、デイケン等のツールを確実に実施することで、児童のSOSのサインを見逃さず聞き取りをしたり、大人が小さな変化にも気付いたりすることができるように心掛ける。
	デイケン、いじめアンケート、学校風土調査を確実にし、児童の悩みの早期発見につなげる。	毎日のデイケン、毎月のいじめDアンケート、毎学期の学校風土調査を生活指導主任主導で実施し、教員が即時確認し児童に聞き取りを行う体制が確立できた。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		【品川コミュニティ・スクールの進化】 地域に支えられた地域の顔となり、地域と融合する新しいコミュニティづくりに寄与する特色ある学校を目指す。 【英語教育推進校としての充実】 リタラシー指導を含めた品川区独自の英語科のカリキュラムの確実な実施により、力量維持を図る。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	品川コミュニティ・スクールDAYを校区教育協働委員会と学校が連携しながら、計画・実施をする。	6年生の代表児童が、学校をよくするためにできることを提案することができた。	A	・「品川コミュニティ・スクールDAY」では、来年度、さらに児童が主体的に活動できるような内容を検討していく。 ・森林環境学習は来年度、より充実した行事にしていきたい。 ・地域のお祭りに、児童・教職員・父親倶楽部・PTAが一丸となって、楽しく参加できたことは大きな成果であり、今後も無理のない範囲で継続していく。
	校区教育協働委員会発信の環境学習を行い、来年度以降の行事として確立する。	前年度4年生で行ったが、5年生で実施することが適切であるため令和6年度の5年生は実施せず、令和7年度に実施することとした。	B	
	居木神社と連携し、本校と関連のある盆踊りを教わりお祭り等で披露する。	3年生が盆踊りを教わり披露した。また、4年生はお神輿体験授業を居木神社で行った。例大祭の子ども御輿では父親倶楽部の働きかけで多くの児童が参加した。	A	
②	品川区学力定着度調査の6年英語科において、区の目標値を超える。	平均正答率が82.6%であり、目標値(73.2%)、区平均正答率(81.8%)ともに上回っている。	A	質の高いJTEの授業の成果がしっかりと表れている。2月に行われた英語学習成果発表会では、1～4年でJoint Storytellingを披露した。本校の特色、英語教育推進校として来年度以降も英語教育を充実させていく。
	品川区英語教育推進校として公開授業を実施する。	10月に、JTE研修会の一環として、公開授業を実施した。	A	
	英語成果発表会を実施する。	2月に英語学習成果発表会を行い、1～4年は体育館でJoint Storytellingを披露した。5、6年は教室で、これまでの英語学習の成果を発表した。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成